

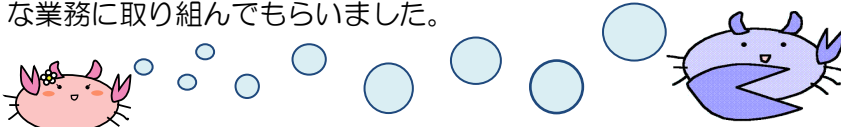
マリナーライフ

[Vol. 185]

【平成29年度職場体験学習（キャリア・スタート・ウィーク）】

中学生の専門員大活躍!!!

さとうみ科学館では、今年も職場体験学習（中学校2年生）の受け入れを行いました。今年度は、大柿中学校1名、能美中学校2名の計3名でした。8月21日から25日の5日間、日頃さとうみ科学館で行っている教育普及活動・調査研究活動をはじめ、さまざまな業務に取り組んでもらいました。



児童クラブの準備!



教材池の整備は重労働!

★今回の仕事内容★

- 水槽メンテナンス
⇒水槽やフィルターを洗う
- 野外調査
⇒「干潟カニ類採集及び巣型とり」
- 教材池の整備
⇒土を池に運び入れる
- 館内整備
⇒館の装飾作り、清掃
- 放課後児童クラブ事業協力
⇒実験道具作成、児童クラブでの指導
- ニュースレターづくり
⇒原稿を考え、写真選びをする。
- 講義
⇒「地域の教育資源について」
「江田島湾のカブトガニの現状」



<さとうみ科学館における職場体験学習のポイント>

- 1.「時間を守る」「あいさつをする」「返事をする」を大切に!
- 2.仕事の説明を聞いて、わからないことあったら、必ず質問をする!
- 3.「仕事」と「休憩」のメリハリをつけ、チームで協力して取り組む!



中学生の職場体験レポート

◆職場体験のメンバー◆

吉武 哲くん、 上空 克希くん、 山下 大貴くん



21日から25日まで職場体験学習をさせていただきました。

僕は、どのような事をするのかワクワクしていた反面、不安もありました。

初日は、アクアギャラリーでオニオコゼとホンペラの水槽の清掃を行いました。しかし、バケツに入れていたオニオコゼがホンペラを食べてしまうハプニングがあり、とても焦りました。なんとかバケツに移したものの、これからはこのような事が無いように心に誓ったと同時に仕事の大変さも知りました。

2日目は、干潟へ行き、シオマネキの巣穴の型どりやカニを捕まえる作業などをしました。指を挟まれたり、カニに逃げられたりして一苦勞でした。でも、僕は大きなクロベンケイガニに指を挟まれながらも、なんとか捕まえた思い出は絶対忘れません。

3日目は、グラウンドの隅にある土の山から教材池に土を運ぶ作業でした。真夏の屋の空の下なので、もちろんとても暑く、休み休みの重労働でした。でも、この汗がとても気持ちよかったですと僕は感じています。

4日目は、釣り針と釣り糸に絡まっていたアオサギを助けたり、能美中学校、三高小学校の水槽メンテナンスに行きました。ガラスについた藻や汚れなどを三角定規で落としました。メンテナンスは、思った以上に大変な作業でした。

この職場体験はぼくらにとってとてもよい経験になったと思います。そして館長の西原さん、職員の皆さん、本当に有難うございました。 (吉武)

僕は、この職場体験を通して分かったことが2つあります。

1つ目は、実験などをするのは楽しいけれど、その準備や片付けをするのは大変だということです。いつもは、このさとうみ科学館の人にやってもらっていたけど、自分がやってその大変さがわかりました。

2つ目は、地道な作業でも粘り強くやるということです。暑い中のカニ採集や教材池の準備は大変だったけど、達成感がすごくありました。

この5日間を通して、自分たちの地域に棲む海辺の生き物についてより深く知ることができました。なので、ここでの経験を活かしていきたいです。 (上空)

僕は、5日間の職場体験で、協同して物事を成し遂げる大切さと、裏方の仕事の大切さを学びました。

僕は人見知りで、コミュニケーションをとることが苦手です。職場体験の初日に、同じ体験をする人達とうまくやっていけるか心配でした。重い荷物を二人で運ぶ時は、どんな言葉をかけていいのかわからず黙ってしまいました。でも、日に日にほんの少し会話ができるようになりました。体育館の会場づくりでは、机を運んだり、シールを貼ったりして、裏方の仕事の大変さを感じました。この貴重な経験を生かし、将来につなげていきたいです。 (山下)

中学生のみなさんは、日を追うごとに仕事の能率が上がり、チームで協力し集中して取り組むことの大切さを感じていたようです。学校生活においても将来の目標をもち、ひたむきに頑張してほしいものです。

やってみよう 見てみよう

第六感??? の巻

「シュモクザメ」を漢字で書くと「撞木鯊」。「撞木(シュモク)」とは、鐘をたたく木槌のことです。英語では「ハンマーヘッドシャーク」と呼ばれ、その名のとおり、大きなハンマー状(T字状)の頭がユニークですね。今回はそんな「シュモクザメ」が持つ“第六感”の秘密にせまってみましょう！

今回の主役：「アカシュモクザメ」

世界中の暖かい海の沿岸に生息しています。頭部の“ハンマー”は湾曲し、中央にくぼみがあることが特徴で、他のシュモクザメ類と見分けるポイントになります。シュモクザメの仲間は群れで泳ぐことが多く、数百の単位になる場合もあるそうです。



※写真は8月末に(有)山本海産(大柿町)の方から連絡をいただき、回収した個体です！(倉橋島亀ヶ首沖：約160cm)

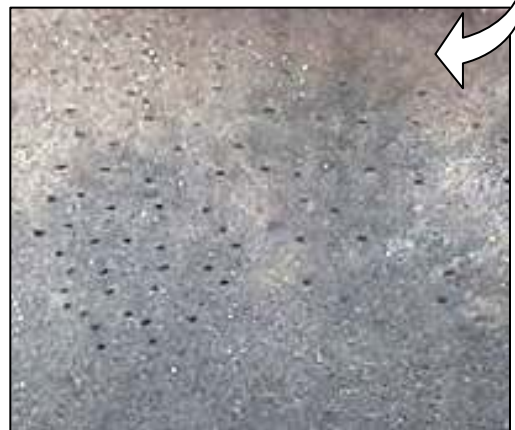
“第六感”の正体＝「ロレンチニ瓶(びん)」

サメやエイ類の体表、特に頭部の腹側や目の周囲に、小さな孔が密に分布しています。これは「ロレンチニ瓶」と呼ばれる感覚器官で、孔の奥はゼラチン質の液体で満たされた袋状の細管となっており、生物が発する微かな生態電流や地球の磁気などを感知し、位置や方角を捉えるセンサーの働きをしています。17世紀にイタリアの解剖学者ステファノ・ロレンツィーニにより発見され、この名が付きましたが、その機能が証明されたのは1960年代以降になってからだそうです。

この特殊な感覚機能は、砂の下にかくれる底生動物を捕食するサメには顕著だといわれます。シュモクザメは、他のサメに比べて発達したロレンチニ瓶を持っており、捕食時に特徴的な頭部で海底付近のエイを掘り出したり、獲物に頭部を打ち付け押さえ込むようにして捕食したりするそうです。

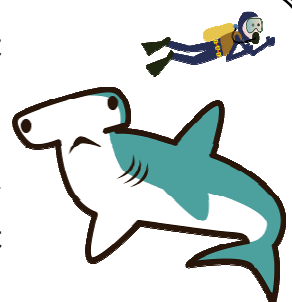


頭部を拡大すると…



◆他にもあるよ!! Let's Try! ◆

かつて瀬戸内海でも、ダイバーがサメに襲われる事故が起き、海水浴場にはあたりまえのように「サメ除け防護ネット」が設置されるようになりました。瀬戸内海で人がサメに襲われた事例はいくつか報告されていますが、そのほとんどが「ホホジロザメ」や「イタチザメ」による被害であり、はっきりと「シュモクザメ」による人的被害と断定された事例はほとんどないようです。とはいえ、肉食のサメであることには変わりないので、気を付けましょうね！



夜の海に輝くウミホタル観察会

今回は、夜の海に輝く宝石を集めます。宝石といっても鉱物ではなく生物です。甲殻類のなかまであるウミホタル！家でそろそろ簡単な材料でしかけをつくれれば、誰でも簡単に採集することができます。年間を通してこの時期はサイズも大きく、よく光ります。しかけの作り方も覚えつつ、神秘的な自然の光を楽しみましょう！きっと感動しますよ！申し込みお待ちしております！

日 時：平成29年10月21日（土）
19：30～21：00
（日入 17：29）

集合時間：19：30
集合場所：旧能美海上ロッジ駐車場
観察場所：旧能美海上ロッジ周辺

申し込み：平成29年10月20日（金）までに
事務局へお申し込み下さい。



☆準備物☆
○懐中電灯 など

潮見表 10月の観察に適した日時（干潮時刻と潮位）

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
時分	0:53	1:34	2:07	2:40	3:14	3:48	4:23	4:59	5:37	6:16	6:59	7:50	9:03	10:45	0:13	
cm	172	145	118	92	67	47	31	23	23	33	51	76	100	111	155	
時分	12:35	13:28	14:11	14:50	15:28	16:05	16:43	17:21	18:01	18:44	19:35	20:47	22:39		12:13	
cm	124	100	77	58	47	44	51	67	90	119	149	173	177		102	
10月	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
時分	1:11	1:55	2:34	3:09	3:42	4:13	4:43	5:12	5:40	6:10	6:43	7:24	8:21	9:55	11:39	0:48
cm	125	96	71	54	42	37	37	42	51	65	83	104	125	137	130	132
時分	13:17	14:06	14:48	15:25	16:00	16:32	17:04	17:35	18:07	18:42	19:25	20:28	22:22	23:56		12:47
cm	86	72	65	65	71	82	95	111	128	146	164	179	181	161		111

cmの数字が小さいほど、よく潮が引きます。

広島県の暦象と潮位（日本気象協会中国センター）から

潮位30cm未満（網掛けにしている日）が調査に適しています。

事務局だより

- 今度は来館！・・・例年、夏休み期間中には、市外の小学校（5年生対象）が3泊4日の体験学習で江田島市を訪れます。「海辺の生き物観察」や「ウミホタル観察」では、さとうみ科学館から講師を派遣し、支援する場合があります。そこで海を体験して帰った児童が、今度はお家の方と一緒に来館される場合があります。「野外体験が楽しかったのかなあ、おぼえてくれたんだなあ」と、うれしく思う瞬間です。また江田島市に来てくださいね！
- 生物の持込・・・内藤勇希くん（能美町鹿川）が「メガネカラップ」というカニと、「アミウツボ」という魚を持ってきてくれました。いつもありがとうございます。アクアギャラリーの水槽で展示しますね。
- 投稿・情報大募集・・・みなさんからの投稿をお待ちしております。次号 Vol. 186（10月15日号）原稿締切は、10月12日（木）です。

江田島市教育委員会 大柿自然環境体験学習交流館

さとうみ科学館 Satoumi Science Museum (SSM)

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江1073番地1

TEL：(0823) 57-2613

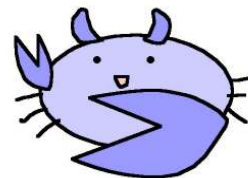
FAX：(0823) 40-3100

メール：satoumimail@yahoo.co.jp

HP：『さとうみ科学館』で検索

◆事務局スタッフ◆

館長：西原 直久
学芸職員：平山 良太
専門員：大野 里沙
専門員：花崎 直子
支援員：木村 さつき



（友の会会員 シニア 161名 ジュニア 119名）

◆あとがき◆ 朝晩、涼しくなりましたね。先日、赤とんぼがたくさん飛んでいるのを見ました。秋ですね～♪ いつの間にかセミの声が秋の虫の声にかわり、静かな夜も、耳を澄ますと結構にぎやかです。（花崎）